



「学習の振り返りとして設定していたので、教科書の学びと実体験が結びつく内容で有難かったです。」

沼津市立長井崎小中一貫学校の6年生15人が、歴史の授業への動機付けや、過去を学ぶことの意義体験を通して学びとることを目的に、土器の分類・石器の試し切り・火起こしの3つの体験を行いました。

### 土器の分類体験

縄文土器と弥生土器の完形土器を持って、よく見たり、厚さや重さ、肌触りなど土器の特徴を感じ取ったりしていました。

次に、縄文土器と弥生土器の2種類の土器片が混ざった箱の中から、土器片を分類します。歴史の授業が古墳時代まで終わっていたので、特徴をつかんでいた子どもたちは、少し迷いながらもほぼ分類できていました。

「授業で習ったことが本当だったということを実感しました。」



### 石器の試し切り体験

発掘された本物の打製石器や磨製石器、黒曜石の尖頭器などを見ながら、金属が伝わる前の旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしを想像し、石器が生活に必要なものであることを確認しました。また、黒曜石が限られた場所では採れないものであることから大変貴重なものであることを理解しました。その後、黒曜石で持参した野菜などを切ってみました。よく切れることに驚いていました。

「砕いただけであんなに鋭い刃ができることに驚きました。黒曜石すごい！」



### 火起こし体験

火起こしの知識はありましたが、経験はなかったので、試技を興味深く見ていました。この日は雨で湿度が高かったこともあり少し苦戦しました。子どもたちも、弾み車を回せてはいるのですが、なかなか火種ができず、途中で交代したり二人で協力したりして、何とか班で1回は着火できました。

「昔の人があんなに苦勞して火を起こしていたなんて驚きです。私たちよりもっと早く火をつけていたんだろうなあとと思った。」



### 先生方の感想

「学習の振り返りとして設定していたので、教科書の学びと実体験が結びつく内容で有難かったです。センターの職員さんは、小学生の扱いに慣れていて、子どもたちも気軽に関わっていたので良かったです。」

